

第 25 回中小企業問題研究会・交流会開催結果報告

Report of the 25th Meeting and Exchange for the Study of Small and Medium-sized Enterprises

中小企業交流実行委員会、茨城県技術士会

1. はじめに

「第 25 回中小企業問題研究会・交流会」は、平成 20 年 10 月 28 日、茨城県技術士会設立 10 周年記念事業の一環として、茨城県水戸市において関係官庁・団体・企業関係者（企業内技術士含む）96 名、技術士（専業）47 名、総計 143 名の参加を得て盛大に開催された。

2. 見学会

(1) 茨城県庁施設（水戸市）

参加者 17 名

茨城県の防災拠点としての防災センター集中監視室を見学。熱心な質疑もあって、充実した見学となった。

(2) (独)日本原子力研究開発機構

大強度陽子加速器施設 J-PARC(東海村)

参加者 39 名

世界最高クラスの大強度陽子ビームを生成する加速器と、その大強度陽子ビームを利用する実験施設で構成される最先端科学の研究施設のうち、50GeV シンクロトロンを見学した。21 世紀の科学を開く最重要の加速器となると期待されていることがよく分かった。

3. 研究会

日本技術士会高橋修会長が、地域の活性化、地方再生を実現するためには、技術士をはじめとする技術者の積極的参画が重要になる。この研究会が地域の中小企業問題解決に役立ことを望むと開会挨拶を行った。

来賓の茨城県知事 橋本昌氏から、強い技術を發展させ、中小企業を發展させるためにも、技術士には日本をどうして行くのかの役割を担い、ますます活動を活発化して欲しいと挨拶があった。(写真 1)

3.1 特別講演:「中小企業のものづくり支援」

経済産業省中小企業庁経営支援部

創業・技術課長 喜多見 淳一氏

中小企業を持つ優れたものづくり基盤技術の高度化への取組の支援がスタートした。20 の特定ものづくり



写真 1 橋本 昌 茨城県知事

基盤技術毎に研究開発等の計画を各地域の経済産業局が認定し、研究開発委託費、政府系金融機関の低利融資などの支援を行う。平成 20 年 8 月時点の認定数は全国で 733 件である。

高専等を活用する人材育成事業は、経済産業省が公募・選定・委託したプロジェクト管理法人がコーディネーターとして機能する。産業界と教育界と連携し、地域の産業集積や中小企業のニーズに応じたカリキュラムで、実践的な人材育成である。全国 35 地域で運用されている。

技術士と中小企業の関係構築に向けて、対応できる技術士、対象と考える中小企業、支援の仕方、そして、中小企業にとってのメリットを明確に打ち出し、中小企業との係わり合いを一層深めることが期待される。また、「技術士ビジョン 21」について触れられ、中小企業についての文言がないことを指摘された。

3.2 特別講演:「茨城県の産業振興策について」

茨城県商工労働部長 細谷 茂治氏

新産業分野の創出が大事であり、バイオ、ナノテクノロジー、IT、新エネルギー、健康、ロボット等の技術シーズの融合を図り、「安心・安全分野」「健康医療・福祉分野」において実用化をめざす産業連携研究プロジェクトを推進している。技術士の方々には技術的な課題解決のための支援として、ビジネスコーディネ

ネーターや専門的な知識・経験を有するテクノエキスパートとして登録してもらい、本県のものづくり産業の売り込みや技術支援に出動してもらいたい。

3.3 基調講演:「モノづくりは人づくり」

(独) 宇宙航空研究開発機構

信頼性推進評価委員長 佐藤 一男氏

日本のモノづくり品質は低下し、現場を支える人材がいなくなるとともに、モノづくりを軽視する社会風潮が広まり、子供たちの理科嫌い、学生の工学離れを引き起こしている。このような状況に対応するためには「モノづくり人材」の育成が急務である。人づくりには、モノづくり大好き人間を育てることが肝要であり、子供に科学する心を育てる必要がある。モノづくりの基本を見直し、危機意識を共有した心一つの職場作りが基本となる。(写真2)



写真2 佐藤一男氏

3.4 パネルディスカッション

「共に創り・栄える中小企業

～パートナーとしての技術士～」

コーディネーター：茨城県技術士会 会長

阪本 三郎氏

パネリスト：茨城県工業技術センター センター長

藤沼 良夫氏

(財)常陽地域研究センター 研究参与

久野 美和子氏

コロナ電気株式会社 代表取締役

柳生 修氏

茨城県技術士会 技術士(化学)

荻原 覚氏

茨城県技術士会が実施した中小企業者が抱えている問題点を明らかにするためのアンケート調査結果を踏まえて、パネルディスカッションが行われた。(写真3)

(1) 商工労働部の施策に関して

- ・メルマガの活用により周知の向上が図られつつある。また、窓口の明確化と成功事例のPRが必要である。



写真3 パネルディスカッション

(2) コーディネーターの活用に関して

- ・技術士はテクノエキスパートや産業活性化事業で活躍しているが、大企業出身者が多いので現場で手を汚す方が少ない。

(3) 新製品開発に関して

- ・新製品を開発する前に製造現場のスリム化も必要。技術士の活用には人を知り、工業技術センターと技術士のネットワークを持つことが必要である。

最後に、技術士に対して「茨城のものづくりを日本一にする技術士」、「中小企業に何をサポートするか」、「企業の技術温存のために支援を」など要望が述べられた。

4. 交流会

会場を隣接する茨城県庁食堂「ひばり」に移し、大会の話題、参加者の意見交換、ビジネストークなど活気あふれるコミュニケーションがなされた。また、料理長の茨城県産の代表的な食材を使った料理の紹介や津軽三味線のアトラクションなど、和気藹藹のうちに次回開催の神奈川県技術士会の紹介(平成22年2月)で締め盛会裏に閉会した。

5. 総括

本研究会・交流会が各分野の関係者の御協力のもとに開催され、有意義な議論・コミュニケーションが図られたことは、技術士と行政、産業界、金融機関との共働関係構築に新たな指針を与えるものと評価できる。今後の技術士・本会活動への示唆を与えた。